

■市立気仙小学校建築設計業務公募型プロポーザル 総評

陸前高田市の復興事業としては二回目のプロポーザル型設計競技でした。本事業の主旨に共鳴する優れた案が全国から寄せられました。

一刻も早くという市民からの希望を元に、復興にはともかくスピードとコストが求められます。その状況下であえて手間暇の掛かるやり方を取ることに、市当局のたいへんな努力があったはずですが、しかし、成長して市民となる今の子供たちは、「われわれの世代が彼らに何を残したか」をいずれ問うようになるでしょう。そう考えればわれわれ設計者は襟を正して、喫緊の要請に応えつつも、未来からの問いかけにかなう施設造りや街造りに望む責務があります。

最終審査では、提出された案もさることながら、周辺状況や昨今の物価高騰などの諸問題を受け止めて適切に対処できるかどうか、という観点も加味して議論が交わされました。

最優秀となった綾井・土屋・IEE 設計共同体は、当日のしっかりした説明が好感を持たれました。この人ならこれから予想される幾つかのハードルを乗り越えていってくれそうだ、という感じがしました。敷地が置かれた状況に対する理解、計画を進めていく上での柔軟性、オーソドックスでコンパクトな平面計画、こうしたものがもたらす実現性、そうした提案の内容にプレゼンテーションの印象が加味され、多くの支持を得て最優秀案となりました。

優秀案の青木淳建築計画事務所の場合は、多くの基本的な問題を配置計画に抱えており、それをどこまで修正できるかが問われていました。にもかかわらずこの案が最終まで残ったのは、大きな地勢的要因との関係性の中にこの建物を位置づけよう、という重要な視点を提示したからです。青木さんの説明によりおおよその方向性には見当がつかいましたが、最優秀案とはなりませんでした。

それぞれ忙しい仕事の合間を縫って案を作ってくださった応募者のみなさん、ヒアリングに足を運んでくださったみなさんには、審査委員を代表して深甚の謝意を表したいと思います。

市立気仙小学校建築設計業務
受注候補者選定審査委員会
委員長 内藤 廣